

令和7年第2回西海市議会定例会

市政一般に対する質問一覧

月 日	通告順	登壇順	氏 名	頁
6月17日 (火)	1	1	荒 木 吉 登 議員	2
	2	2	瀧 瀬 栄 子 議員	3
	3	3	川 口 正 幸 議員	5
	4	4	中 村 和 也 議員	7
6月18日 (水)	5	1	百 岳 忠 彦 議員	8
	6	2	平 井 満 洋 議員	9
	7	3	打 田 清 議員	11
	8	4	石 崎 義 信 議員	13
6月19日 (木)	9	1	川 口 隆 之 議員	15
	10	2	杉 山 誠 治 議員	16
	11	3	浅 川 容 行 議員	18
	12	4	片 山 智 弘 議員	20
6月20日 (金)	13	1	宮 原 達 也 議員	22
	14	2	戸 浦 善 彦 議員	22
	15	3	谷 口 雅 樹 議員	23

1. 荒木 吉登 議員

質問事項 1

交通空白地の支援について

質問の要旨

本市では、人口減少の影響により公共交通の利用者が減少し、一部のバス路線が廃止されている。高齢化が進む中、運転免許の返納を余儀なくされる市民も増加しており、非常に深刻な状況となっている。一方で、市民から高評価を受けているスマイルワゴンは、市内の重要な交通手段として欠かせない事業となっている。本市では持続可能な地域公共交通を構築するため、令和5年に西海市地域公共交通計画を策定しているが、地域が抱える移動に関する課題の早急な解決を期待するところである。

このような現状を踏まえ、令和6年第3回市議会定例会の一般質問において、市民が日常生活に支障をきたさないための必要最低限の対策が重要である旨を質問した。

そこで、次の点について改めて伺う。

- (1) 現在、スマイルワゴンは市内を4区域に分けて運行しているが、利用者からは区域を越えた運行を希望する声が上がっている。特に高齢者からは乗り継ぎポイントでの待機時間が負担であるとの意見があることから、早急に待機時間の解消を図るとともに、区域を越えた運行を可能とすることで、利用者の効率性と利便性に配慮した地域公共交通の再構築を検討する考えはないか伺う。
- (2) 市内の公共バスは利用者が少なく、路線の廃止が相次ぎ、交通空白地が増加している。その対策として、スマイルワゴンや乗合タクシーへの転換が示されているが、今後も交通空白地が増加することを鑑みると、新たな支援策も必要と考える。

そこで、買い物や通院などの日常生活における移動支援として、交通空白地域を対象に、タクシー券を配布する等の支援事業を実施できないか伺う。

質問事項 2

物価高騰に伴う米の支援について

質問の要旨

物価高騰等に伴う米の価格高騰が続く中、備蓄米の放出方法を変更する方針が示され、米の価格については一定の低減が図られる見通しとなったが、今後も同様の事態は起こり得ると考えられる。

そこで、次の点について伺う。

- (1) 米の安定供給と持続可能な農業を支援するため、生産農家に対して何らかの支援策を講じる考えはないか伺う。
- (2) 今後、米の価格高騰が起きた際、市民に対して、お米券を配布する等の消費者支援策を実施する考えはないか伺う。

質問事項 3

パールテクノ西海への企業誘致と周辺への活性化について

質問の要旨

第2次西海市総合計画に掲げられた工業団地整備事業において、平成27年にパールテクノ西海が完成した。第1期整備では、3区画4.7ヘクタールのうち、平成29年に1区画2.4ヘクタールが売却されたが、残り2区画約2.3ヘクタールの誘致は未だに達成されておらず、8年以上が経過している。

また、平成30年に予定されていた第2期整備計画も大幅に遅れている。そのような中、令和6年第3回市議会定例会の一般質問では、第1期整備の全区画が完売するまでは、第2期整備を考えていないとの答弁があったが、現状のままでは地域の活性化が遅れる懸念がある。

特に、地域高規格道路「西彼杵道路」の大串白似田バイパスの事業化に伴い、国道206号周辺や大村湾沿岸の活性化に向けて大きなチャンスが訪れると考える。この状況を踏まえ、未売却区画の早期売却に向けて、長崎県産業振興財団などの関係機関との協議を進めるとともに、住宅団地や商業施設への転換、市内企業の事業拡大を支援するための活用など、新たな方向性の検討も必要と考えるが、市長の見解を伺う。

2. 湊瀬 栄子 議員

質問事項 1

物価高騰対策について

質問の要旨

令和7年4月18日に発表された総務省の報道資料によると、消費者物価総合指数は前年同月比で3.6%上昇しており、物価の高騰が続いている。本市においては、令和5年度に、市民や事業者の経済的負担を軽減することを目的に、水道料金の基本料金を減免する特別支援事業が実施された。

このような物価高騰対策を再度実施する考えはないか伺う。

質問事項 2

移動販売再開について

質問の要旨

令和6年第4回市議会定例会において、「買い物弱者対策事業」について質問した。この際、移動販売車の購入またはリースに係る経費も補助対象に加えるべきと提言したが、これに対し「補助対象経費の拡充を検討しており、また、現在、市内の小売事業者2者が移動販売車の整備を計画している」との答弁であった。

そこで、移動販売の再開の見込みはいつになるのか伺う。

質問事項 3

イノシシの掘り起こし被害対策について

質問の要旨

大島町の徳万地区にある市有地では、イノシシによる掘り起こし被害が発生しており、その結果、被害を受けた後の崖の土が不安定になっている。このため、大雨などが原因で崖崩れが発生し、近隣の民家に被害が及ぶのではないかと地域住民から不安の声が上がっている。掘り起こされた市有地の崩壊を防ぐために早急な対策が必要と思うが、市長の考えを伺う。

質問事項 4

路線バスと高速船の乗り継ぎについて

質問の要旨

「佐世保市内の病院に通院する際、崎戸町や大島町からの路線バスが大島港バス停に到着するのは午前7時52分である。しかし佐世保行き的高速船は、午前7時53分に出港するため、乗り継ぎ時間がわずか1分間しかなく、乗り継ぎが出来ずに困っている」と高齢者からの声が寄せられた。

令和5年3月に策定された「西海市地域公共交通計画」では、「結びつきが強い佐世保方面等への公共交通同士の乗り継ぎの円滑化が必要」とされている。

そこで、この状況を改善する必要があると思うが、市長の考えを伺う。

質問事項 5

75歳以上の高齢者に対する交通費助成対象について

質問の要旨

令和6年第4回市議会定例会において、75歳以上の高齢者に対する交通費助成について一般質問を行った際、「合併当初は辺地に指定されている行政区に住む方のみを対象としていたが、平成20年度から対象地区を現在の7地区に拡大している。」との答弁であった。

長崎県内において高齢者に対する交通費助成制度を導入している自治体では、対象年齢を70歳以上または75歳以上とし、その自治体に住所を有する方を対象としている。しかし、特定の地区を指定しているのは本市のみである。

そこで、75歳以上の高齢者に対する交通費助成の対象地区の指定を撤廃するべきと思うが、市長の考えを伺う。

質問事項6

妊婦に対する遠方の分娩取扱施設への交通費及び宿泊費支援事業について

質問の要旨

妊婦に対する出産支援対策として、平成27年第3回市議会定例会において離島地域の出産支援事業の市内全域への拡大を、また令和5年第1回市議会定例会において陣痛タクシー支援事業の導入を提言したが、いずれも取組が難しいとの答弁であった。

国は、令和6年4月1日付けで「妊婦に対する遠方の分娩取扱施設への交通費及び宿泊費支援事業実施要綱」を発表した。この制度は、住所地もしくは里帰りしている場合の里帰り先の居住地から、最も近い分娩取扱施設まで概ね60分以上の移動時間を要する妊婦に対して、交通費及び宿泊費を助成するものである。

そこで、この要綱に基づき、市内に分娩取扱施設がない本市こそ、妊婦に対する分娩取扱施設への交通費及び宿泊費支援事業に取組むべきと思うが、市長の考えを伺う。

3. 川口 正幸 議員

質問事項1

小中学生のスポーツ・文化活動の機会確保について

質問の要旨

少子化の影響により、全国的に小中学生のスポーツ・文化活動の機会が減少または喪失している現状がある。本市においてもこの傾向は顕著であり、中学校部活動では部員不足や、それに伴う廃部によって、活動を希望する子どもたちが参加でき

ない状況が増え、その結果、競技継続を断念したり、校区外や私立学校への進学、市外クラブへの入部など、子どもたちを取り巻くスポーツ・文化活動の環境は大変厳しいものがある。

そのようなことから、令和4年12月にスポーツ庁及び文化庁が「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定し、長崎県も令和5年3月に「長崎県中学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針」を示した。

それに伴い、本市も「西海市部活動の地域移行推進計画」を令和6年6月に策定し、子どもたちが多様なスポーツ・文化活動が選択できる環境を整備するため、中学校部活動の地域クラブ移行を推進している。

そこで、以下の点について伺う。

- (1) 令和8年度以降、休日の全ての中学校部活動について地域移行を完了するための具体的方策を伺う。また、地域移行が難しい中学校や競技に対しては、どのような対策を講じるのか伺う。
- (2) 令和8年度以降の中学校部活動の地域移行を見据え、各中学校で行われている部活動の在り方について、今後、各部活動の実施頻度や教職員の関わり方がどのような形態に変化していくのか見通しを伺う。
- (3) 小中学生のスポーツ・文化活動の機会を確保するため、学校教育としての中学校部活動と、小学生を含む社会教育としての地域クラブ活動との地域連携や体制整備をどのように進めていくのか伺う。

質問事項2

西海市学力向上5アッププロジェクトについて

質問の要旨

第二期西海市教育振興基本計画において、重点政策として「生きる力を育む学校教育の実現」を示しており、令和7年4月には「西海市学力向上5アッププロジェクト」を作成している。

そこで、以下の点について伺う。

- (1) プロジェクト作成において「全国・学力学習状況調査の正答率」と「平日の家庭学習時間」を指標とした意図を伺う。
- (2) 5アップの一つに「英語力向上のチャレンジアップ」として、英語に特化した項目を入れた意図を伺う。

4. 中村 和也 議員

質問事項 1

最終処分場整備事業について

質問の要旨

現在、住民説明会が行われている最終処分場整備事業について、西海町中浦地区で実施された資料を確認したところ、施設自体には特に問題がないように思われた。しかし、最終処分場の必要性については理解しつつも、その整備場所については懸念を抱いている。

具体的には、最終候補地がダムの上流に位置していることが問題と考える。このダムの水は、西海町の農業用水として使用されており、さらに下流では大島町、崎戸町の水道水の水源としても使用されている。また、整備予定地の近くには水源涵養保安林が存在しており、環境への影響が懸念される。

このような状況を踏まえ、最終処分場の整備自体の必要性は理解しているが、整備場所については水源の上流ではない別の場所を再考すべきと考えることから、市長の考えを伺う。

質問事項 2

農家民泊等を活かした地域活性化の取組について

質問の要旨

本市では、年間 1,400 人の修学旅行生が農家民泊を利用している。長崎市での平和学習や佐世保市でのハウステンボス見学を組み合わせた修学旅行コースを考慮すると、本市はその地理的条件を活かし、更なる観光資源としての可能性を秘めていると考える。しかし、農家の高齢化により、修学旅行生の受け入れ可能な農家数が減少し、申し込みに対応しきれない現状がある。

そこで、次の点について伺う。

- (1) 修学旅行生の受け入れ可能な農家数が減少している現状に対する市の認識と今後の対応策について伺う。
- (2) 郷土料理へのふれあいやミカン狩り、ゆでぼし大根づくりなどの農業体験、海のない地域から来る修学旅行生に対する漁業体験やペーロン体験等は、本市の魅力をアピールする絶好の機会であると考えことから、これらの特色を活かした体験プログラムの実施状況と今後の取組の展開について伺う。
- (3) 修学旅行生の受け入れ先として、空き家やタイニーハウスの活用の可能性につ

いて伺う。また、これらの施設の管理運営を通じて新たな雇用を創出し、地域経済の活性化を図ることができないか伺う。

- (4) 西海町横瀬地区では、10年後も暮らしやすいまちであり続けることを目指し、横瀬地域づくり協議会を立ち上げ、子ども達が地元で愛着を持てる地域づくり活動に尽力している。今後、横瀬地域づくり協議会では農家民泊を新たな事業として考えていることから、この取組を推進するためアドバイザーの人材派遣ができないか伺う。

質問事項3

有害鳥獣対策について

質問の要旨

本市では、ワイヤーメッシュ柵や電気柵の購入補助を通じた防護対策と捕獲対策を早期から実施しており、確実に効果を上げている。しかし、設置から相当年数が経過したワイヤーメッシュ柵の中には、国が示す耐用年数である14年を超えているものも存在することから、老朽化したワイヤーメッシュ柵の改修について、過去の補助交付の履歴データを活用し、改修の必要性を呼びかける考えはないか伺う。

5. 百岳 忠彦 議員

質問事項1

一般廃棄物最終処分場について

質問の要旨

一般廃棄物最終処分場について、次の点について伺う。

- (1) 大瀬戸最終処分場は令和11年度末には容量が満杯になると予想される。現在、新たに計画されている最終処分場はクローズド型の埋め立て施設と浸出水処理施設を備えた被覆型の処分場である。この計画に関して、最終処分場の設置場所、埋立敷地面積、収容年数、外部擁壁・床版の構造について詳細を伺う。
- (2) 先日、大瀬戸最終処分場を見学した際、埋め立て場の表面に多くの不燃残渣が見られ、処分の状況に不安を感じた。現在、この処分場に埋め立てている焼却灰以外に、有害な廃棄物は埋め立てられていないのか。また、施設の維持管理に携わる従事者には、必要な研修を実施されているのか伺う。さらに、今後整備される最終処分場の管理運営については、どのように考えているのか伺う。
- (3) 伊佐ノ浦ダム貯留水は、昭和63年から畑地灌漑用水として利用されており、

ダムから貯留タンクまでポンプアップし西海町の畑地広範囲に供給されている。しかし、ダム上流に一般廃棄物の最終処分場を造ることで、当該地域の農作物に対する風評被害が懸念される。さらに、ダム下流域では、大島町と崎戸町に上水道として水資源が供給されている。進めようとしている最終候補地の選定場所は非常に不適切であると考え。改めて、この状況下で 21 カ所の候補地の中から最適と判断し、ダム上流を設置場所に選定した経緯を伺う。また、他の候補地名の公表ができないのか伺う。

質問事項 2

崎戸町の無医師地区解消について

質問の要旨

高齢化社会において、医療と福祉は重点的に取り組むべき項目として欠くことができないと認識している。令和 7 年 2 月に「西海救急クリニック」が西海町木場郷の西海スポーツガーデン敷地に開業した。特に緊急を必要とする救急搬送において、西海市全域からほぼ 30 分以内で到着可能な立地であることから、一定の安心感を抱いている。その一方で、崎戸町には江島・平島地区の離島の診療所は開設しているが、崎戸本土には病院が存在しない状態である。市長は「崎戸町の無医師地区」を重要視されて、選挙期間中及びその後の発言において解消を訴えていたと理解している。

そこで、崎戸本土における医療施設の設置に向けた今後の方針や取組について伺う。また、医療機関の整備にあわせて、交通弱者である高齢者の利便性に配慮した通院手段の政策を考えているのか伺う。

6. 平井 満洋 議員

質問事項 1

長崎オランダ村について

質問の要旨

令和 7 年第 1 回市議会定例会において長崎オランダ村株式会社との訴訟に係る審理状況について一般質問したところ、「次回期日については、令和 7 年 5 月 20 日に弁論準備手続が予定されている」とのことであったが、その後の進捗状況について伺う。

質問事項 2

公衆トイレについて

質問の要旨

これまでも市内の公衆トイレの洋式化について質問してきたが、直近の洋式化率を伺う。

また、西彼中央グラウンド横の公衆トイレは、野球やソフトボールの試合、ゴールデンウィーク時には、長崎バイオパークの駐車場としても多くの方が利用している。令和7年第1回市議会定例会において、早急な改装の必要性を提言したが、現在の改装の進捗状況及び今後の改装の方針について市長の考えを伺う。

質問事項 3

松島架橋について

質問の要旨

平成17年度に長崎県の橋梁調査にて算出された松島架橋に係る概算工事費用は、約120億円を要すると聞いていたが、令和4年第3回市議会定例会では「令和2年度時の試算による概算工事費用は、約179億円である。」との答弁であった。現時点での工事費用はどれくらい見込まれるのか伺う。また、本市として松島架橋実現に向けての政策を持ち合わせているのか、併せて伺う。

質問事項 4

バス停シェルターの設置について

質問の要旨

バス停シェルターとは、バス利用者が待機中に安全で快適に過ごすことを目的に設置されている屋根付きの待合所である。これにより、雨や風からバス利用者を守ることができ、さらに暑い日差しを避けることで熱中症の予防にも役立つと考えられる。しかし現在、西海町中浦郷の「中浦局前」バス停についてはシェルターの設置がなく、スクールバスを利用する児童たちは、雨天時には雨風にさらされるなど不便な環境を強いられており、シェルターの設置を求める声が多く寄せられている。

このような状況を踏まえ、「中浦局前」バス停にシェルターを早急に設置する必要があると思うが、市長の考えを伺う。

質問事項 5

乳幼児健診について

質問の要旨

現在、本市の乳幼児健診は大瀬戸保健センターの1ヶ所でのみ実施されていると聞いている。しかし、市全域の保護者の受診の利便性の観点から、西彼町、西海町、大島町、崎戸町など、それぞれの地区で分散して乳幼児健診を実施する考えはないか伺う。

また、乳幼児健診に訪れた保護者の方々から健診時の待ち時間が長いとの声が寄せられている。この状況を改善できないか併せて伺う。

質問事項6

こども福祉医療費助成制度について

質問の要旨

こども福祉医療費助成制度において、小学校新1年生を持つ世帯では、4月1日以降にこども福祉医療費受給者証が届くまでの間、保護者が一時的に自己負担を行い、後日申請により払い戻しが受けられる償還払いの対応を行っていると聞いている。このため、受給者証が届くまでの間の自己負担が家計の負担になっているという声が寄せられている。

そこで、こどもを持つ世帯の負担を軽減するために、こども福祉医療費受給者証を4月1日から使用できるようにすることはできないか伺う。

7. 打田 清 議員

質問事項1

市内医療提供体制の現状と改善策について

質問の要旨

令和7年2月に西海救急クリニックが開院し、救急医療体制は整ったと考えられる。しかし、大瀬戸地区のわたなベクリニック、崎戸地区の山崎医院が令和6年3月末をもって閉院した。特に、崎戸地区本土は無医地区となり、住民は日々不安を抱えて生活していると聞く。

このことについて、令和6年第2回市議会定例会で「西海市の医療について」質問した際、「市内訪問看護ステーションの居宅サービス事業拡大への市補助金支援や、医療・介護関係団体での協議、西海市医療プランの改定に伴う施策の検討を進める」との答弁があった。

市長は、選挙戦で「崎戸町の無医地区解消などに取り組む」と訴えていた。

そこで、この現状に対し、どのような改善策を講じる考えがあるか、改めて市長の考えを伺う。

質問事項 2

産業振興について

質問の要旨

市長は、選挙戦で、「基幹産業の農業、林業、水産業の振興」、「地場企業の事業展開の後押し」、「企業誘致と地域経済の活性化」を訴えていた。

これに関して、以下の具体的な点について伺う。

- (1) 地元特産品を活用したブランド作りについて、具体的な取組内容と、そのブランド品の販路拡大方法について伺う。
- (2) 農林水産業の技術革新と持続可能な生産方法の導入について、具体的にどのような技術や生産方法を考えているのか伺う。
- (3) 地域資源を活用した新商品開発やマーケティングを推進するために、地元企業に対してどのような支援を行うのか伺う。
- (4) 企業誘致による地域経済の活性化には相当な勇気と行動力が必要と思われるが、市長はどのような姿勢でこれに取り組むのか伺う。

質問事項 3

最終処分場の建設計画について

質問の要旨

現在稼働している大瀬戸最終処分場は、嵩上げを繰り返しながら運用を延長してきたが、令和 11 年度末には満杯になる見込みである。このため、前市長は新たな最終処分場の建設計画を提案し、関係地区での地元説明会に出席して説明を行ってきた。

そこで、この計画について市長はどのように考え、今後どのように対応していくのか、以下の点について伺う。

- (1) 前市長が進めてきた現計画に関して、選定した最終候補地とクローズド型最終処分場について、市長の見解を伺う。
- (2) 前市長は地元説明会にすべて出席し、現計画について提案・説明を行ってきたが、市民からは様々な意見が出ている。今後の地元説明会において、市長が出席して改めて提案・説明を行う予定があるのか伺う。

質問事項 4

西海ふるさと便事業の再開について

質問の要旨

西海ふるさと便事業は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済対策の一環として、当初は市産品の発送料を全額支援していたが、一部で不正が発覚し、令和5年3月に終了を迎えた。その後、多くの市民から継続の要望があり、一定の条件の下で令和5年11月に再開されたが、令和7年2月末を以て一旦休止となっている。

この事業は、令和5年の再開時からは市産品を市外や県外に住む家族や知人・友人に送る際、2,000円以上の買い物で500円の送料を一部負担する形で利用でき、市産品のPRや生産者の所得向上、販路拡大等に寄与してきた重要な事業であったと認識している。令和7年第1回市議会定例会の一般質問では、「財源の確保が難しく、利用者のニーズが低下しているため、事業を終了する予定であるが、多くの継続要望が寄せられたため、一旦休止し再検討を進める」との答弁があった。

そこで、再開を強く望む市民の声に対し、当該事業の再開を再検討する考えがあるか、市長の見解を改めて伺う。

質問事項 5

小中学生の登下校時における安全対策について

質問の要旨

最近、全国で小学生の登下校中の列に車が突っ込む事故が多発しており、報道でも取り上げられている。中には死亡事故に至るケースもある。

これを受けて、本市では保護者、児童生徒、学校に対してどのような指示や指導、対策を行っているのか伺う。

8. 石崎 義信 議員

質問事項 1

大瀬戸ふれあいプールの温水化及び今後の施設運営について

質問の要旨

大瀬戸ふれあいプールの温水化については、令和6年第4回市議会定例会の一般質問においても議論されてきたが、改修工事費に活用可能な財源が見込めた場合でも、維持管理費の財源確保が困難であるという理由で進展が見られない状況である。しかし、長崎県内の多くの市では温水プールが設置されており、市民の健康増進や、

子どもたちの水辺の安全教育等に寄与している。

そこで、次の点について伺う。

- (1) 温水化設備への改修が困難な理由として、維持管理費の財源確保が挙げられているが、利用者の増加に繋がる事業を実施することで使用料の増加が見込まれ、維持管理費への充当が可能と考えるが、この点について、教育長の見解と温水化設備についての考えを改めて伺う。
- (2) 現在、プールは毎年7月から9月までの夏季期間に開館しているが、今年度も例年どおり開館するのか伺う。また、市民の健康増や子どもたちの水辺の安全教育等の観点から、開館期間中に定期的な水泳教室を実施することができないのか伺う。
- (3) 人口交流の拡大と施設の有効活用を図るため、合宿の誘致を行い、利用者が少ない時間帯での専用レーンの使用や、施設閉館時間帯の利用などの活用が検討できないか伺う。
- (4) 現在、当該施設は単年度での期間限定の業務委託となっているが、複数年の業務委託を行うことで、施設の管理運営にあたり、施設に関する技術的な知識やノウハウが蓄積され、サービスの質の向上が図られると考えるが、この点について、教育長の考えを伺う。

質問事項 2

西彼保健福祉センター遊湯館の温泉施設について

質問の要旨

西彼保健福祉センター遊湯館は、市民の健康保持増進を目的として設置された施設であり、その温泉施設は市内外から多くの利用者を集め、地域の交流人口の向上にも寄与している。しかし、令和2年から令和5年にかけての利用者数の推移を確認したところ、コロナ禍にもかかわらず右肩上がりに増加していた利用者が、令和6年には前年比約20%減少している。

そこで、この利用者数減少の原因と今後の利用者数の見通しについて伺う。

質問事項 3

子ども食堂への支援について

質問の要旨

子ども食堂は、民間による自主的かつ自発的な取組として、全国的に広がりを見せており、公的な制度がまだ十分に整備されていない中でも、その数は増加してい

る。本市においても、現在5軒の食堂がある。

そこで、これらの子ども食堂に対する現状の支援状況について伺うとともに、今後、民間事業者との協力体制を構築し、国の支援事業と併せて本市においても何らかの支援策が検討できないか伺う。

9. 川口 隆之 議員

質問事項1

中学校生徒通学費補助制度について

質問の要旨

近年、少子化による生徒減少の影響により、市内の中学校の部活動が廃部に追い込まれている。その結果、希望する部活動がないため、校区外の中学校に進学し、部活動に励んでいる生徒がいる。しかし、これらの生徒は通学費補助の対象外とされているとの声が寄せられた。

そこで、次の点について伺う。

- (1) 校区外の中学校に通学する生徒を補助対象外としている理由を伺う。
- (2) 平等性の観点から、校区外の中学校に進学する生徒も通学費補助の対象とする考えはないか伺う。

質問事項2

西彼中央運動場の改修について

質問の要旨

西彼町中央運動場は、中学生の軟式野球や小学生から大人までのソフトボールなど、多様なスポーツ活動に利用されている。その立地の良さから、長崎市や佐世保市からも多くの利用者が訪れている。また、練習試合や各種大会が開催され、年間を通じて多くの人々に利用されている。しかし、施設が完成してから約40年以上が経過しており、フェンスの破損や腐食、ベンチの劣化が進行している。さらに、グラウンド内の排水性も悪化しており、特に大雨の後には砂が流出し、利用者が自費で砂を購入して整備を行わざるを得ない状況となっている。このような状況から、利用者からは改修を求める声が寄せられている。この運動場は、地域の重要な社会体育施設としての役割を果たしており、早急な改修が必要と考えるが、今後の対応についてどのように考えているのか伺う。

質問事項 3

選挙の投票率について

質問の要旨

今回、市長選挙、市議会議員一般選挙、県議会議員補欠選挙のトリプル選挙が行われたが、市長選挙及び市議会議員一般選挙の投票率は前回を下回る結果となった。

そこで、今後の投票率向上に向けた取組について伺う。

- (1) 18 歳以上の学生の投票率向上を図るため、高校に期日前投票所を設置するなどの取組を行う考えはないか伺う。
- (2) 第 1 投票所である上小迎公民館は、玄関に 50 センチメートル以上の段差があり、車いす利用者や足の不自由な高齢者などにとって支障となっていることから、誰もが投票しやすい環境に改善する考えはないか。
- (3) 障がい者や高齢者が投票しやすい環境をつくるため投票所のバリアフリー化など投票環境の改善が必要と考えるが、市内の投票所はこの視点に立った措置が講じられているのか伺う。

10. 杉山 誠治 議員

質問事項 1

市道の維持管理について

質問の要旨

西海市内の市道については、日頃より職員や作業員により適正な維持管理に努められているところであるが、特にこれからの梅雨や台風シーズンを迎えるにあたり、市民の安全を守る観点から次の点について伺う。

- (1) 土砂や枝葉が堆積して水が流れにくくなっている側溝が見受けられるが、定期的なパトロールは逐次行われているのか。
- (2) 市道沿いの樹木について、倒木や枝の落下の恐れがないか十分な確認は行われているのか。
- (3) 道路上の大きな亀裂や陥没等の異常はないのか。

質問事項 2

市道の整備について

質問の要旨

市道の状況および改良について、次の 2 点を伺う。

- (1) 令和3年8月15日、シニアモーターカーが歩道のない市道を走行中、対向車を避けようとして、蓋のない側溝に脱輪し、転倒する事故が発生した。その結果、法面を滑り落ち、危うく川に落ちそうになったと聞いている。このような危険を未然に防ぐために、市道の側溝には蓋を設置するべきではないかと考えるが、市長の見解を伺う。
- (2) 市内全域の市道について、歩道が整備されている場所と整備されていない場所があるが、多くの児童生徒が通学路としてこれらの歩道を利用している。
そこで、児童生徒の安全を確保するためにも歩道の整備が必要だと考えるが、市長の見解を伺う。

質問事項3

崎戸海浜公園の案内板について

質問の要旨

現在設置されている崎戸海浜公園の案内板について、場所が分かりにくいため、観光客が市営団地内の道路を通過して遠回りをする場合が多く、このため特に海水浴シーズンには、市営団地内の道路が混雑することが見受けられる。

そこで、道路案内板の位置を変更するか、または案内板の大きさを改善することはできないか伺う。

質問事項4

西海救急クリニックおよび西海スポーツガーデンの共用道路について

質問の要旨

令和7年2月3日より西海救急クリニックが開設され、西海スポーツガーデンの施設専用道路を共同利用している。この共同利用に際して、施設利用者の通行上の安全対策およびそれぞれの施設の防犯対策が適切に実施されているのか伺う。

質問事項5

スクールバスについて

質問の要旨

交通手段の乏しい地域の児童生徒の通学を支援するため、本市ではスクールバスを運行しているが、「西海市スクールバスの設置及び管理に関する条例」に基づき、その運行区域が定められている。その中で、大瀬戸地区においては運行区域が多良地区に限定されているが、本市が辺地として指定している幸物行政区などにもス

クールバスの運行を拡大する考えはないか伺う。

11. 浅川 容行 議員

質問事項 1

選挙における投票率向上に向けた具体的取組について

質問の要旨

本市は合併から 20 年が経過し、市長選挙、市議会議員一般選挙が今回も含めてこれまでに 6 回行われて来た。しかし、市長選挙の投票率は第 1 回の 89.55%をピークに、今回は 72.32%と、この 20 年間で 17.23%も低下している。また、今回の投票率を投票区別で見ると、最も高い投票区では 86.37%であるが、最も低い投票区では 59.90%と 26.47%もの開きがあるのが現状である。

これを踏まえ、以下の点について伺う。

- (1) 年々投票率は低下の一途を辿っているが、投票率向上のために、市選挙管理委員会としてこれまでどのような取組を行って来たのか伺う。
- (2) 本市においては、平成 23 年 4 月執行の県議会議員一般選挙から、投票時間が午前 7 時から午後 6 時までとなっている。しかしながら、働き方やライフスタイルは多様化しており、投票時間を最大限確保すべきではないかと考える。

そこで、現在午前 7 時から午後 6 時となっている投票時間を、従来の午前 7 時から午後 8 時までに再度変更する考えはないか伺う。

- (3) 市長は、令和 7 年 4 月 25 日付の長崎新聞社のウェブ版記事で、投票権がある学生に向けて学校の休み時間を利用して投票できる「移動投票所」の設置について述べている。

そこで、具体的な実施方法や市長選挙、市議会議員選挙以外の国政選挙などへの適用も考えているのか、市長の考えを伺う。

- (4) 主権者教育の一環として、将来の有権者である子ども達や若者が選挙・政治への関心を持ち、主体的に社会に関わる意識を高めるため、県選挙管理委員会と市町選挙管理委員会が連携し、県内小中高校生を対象とした模擬選挙を実施している。県選挙管理委員会によると、学校からの依頼を市町の選挙管理委員会が受け、その後市町の選挙管理委員会から県選挙管理委員会宛に協力依頼が届くという流れになっていると伺った。本市でも平成 29 年 2 月に西海東小学校において開催実績があるとのことだが、今後実施する考えはないか、教育長の考えを伺う。
- (5) 島根県浜田市では平成 28 年 4 月の公職選挙法改正を機に、同年 7 月 10 日執行

の参議院選挙から「移動投票車」を導入している。直近は令和6年10月に執行された衆議院議員総選挙においても活用されており、地方選挙も含めて全ての選挙で「移動投票車」が稼働しているとのことである。県内では平戸市、対馬市、五島市、東彼杵町でも導入されている。

そこで、本市においても移動投票車を導入する考えはないか伺う。

質問事項2

松島架橋の早期建設に向けた取組と今後の展望について

質問の要旨

松島架橋は松島島民の長年の悲願である。その実現に向けて旧大瀬戸町時代から現在に至るまで、松島架橋早期建設期成会を中心に、県や国に対して要望活動が続けられて来たが未だ実現には至っていない。また、県内では平成23年3月27日に開通した伊王島大橋以来、新たな架橋建設はなされていない状況である。

令和7年5月2日付の長崎新聞社のウェブ版記事で、市長は松島架橋の進展問題に注力する考えを示したとのことであり、島民の期待は益々高まっている。

そこで、以下の点について伺う。

- (1) これまで松島架橋建設に向けて、松島架橋早期建設期成会を中心に、市内小学生を対象とした絵画コンクールや総会での意見交換などの取組が毎年実施されている。

そこで、これまでの取組は十分であったか、市長の見解を伺う。また、今後具体的にどのような取組が必要か、市長の考えを伺う。

- (2) 平成7年12月に財団法人九州経済調査協会が作成した「松島架橋建設促進調査報告書」では、架橋建設の可能性について当時の現状を多角的に分析し、振興ビジョンまで提案されている。

そこで、令和版の松島架橋建設促進調査を行うことが架橋建設の第一歩ではないかと考えるが、市長の見解を伺う。

質問事項3

離島医療および地域医療の体制整備について

質問の要旨

本市には橋で繋がっていない離島として、松島、江島、平島の3つがある。日本全体が少子高齢化、人口減少問題に直面しているが、離島地域では本土以上に急速に人口減少が進行しており、離島医療の更なる充実が求められている。また、崎戸

本土は、合併した旧5町の中で唯一の無医地区となっている。離島や過疎化が急速に進行する地域で暮らす人々が安心して暮らすことができる環境を整えることは、政治の責任であると考えている。

そこで、以下の点について伺う。

- (1) 松島、江島、平島の3つの診療所は、それぞれ離島医療の中核を担っている。江島地区には令和7年4月1日付で新しい医師が着任し、平島地区でも医師が常駐している。一方で、松島地区では令和7年5月から通勤による医師の診療となっている。

そこで、松島地区における常駐医師確保に向けたこれまでの取組と今後の計画について、市長の考えを伺う。

- (2) 離島に暮らす人々にとって、救急医療体制の充実は生命に関わることであり極めて重要である。医師が常駐しない松島地区や、本土の救急病院までの搬送に時間を要する江島地区と平島地区について、特に夜間の救急医療体制の現状と課題について、市長の見解を伺う。

- (3) 現在、崎戸本土は無医地区となっている。市長は令和7年4月25日付の長崎新聞社のウェブ版記事で、崎戸本土の無医地区解消に向けて、県医師会にも相談しながら早急に県とも協力して進めたいと述べている。

そこで、具体的にどのような形で無医地区解消を図るのか、市長の考えを伺う。

12. 片山 智弘 議員

質問事項1

D X推進の取組について

質問の要旨

令和4年4月から情報推進課にD X推進班が設置され「西海市D X推進計画」が策定された。その中で、西海市独自の重点取組事項として「スマート市役所の推進」「市役所内業務の効率化」「民間分野のデジタル化」を掲げている。これまでの実績と、瀬川市政における今後の計画について伺う。

質問事項2

小中学校の学習椅子について

質問の要旨

本市の小中学校に通う児童生徒から「椅子が固くて長時間座ると痛い」という声

が寄せられている。これにより集中力や学習意欲の低下が懸念され、健康面にも悪影響が及ぶ可能性がある。また、岐阜県大垣市では防災の取組として、災害時に防災マットとして使用できるクッションを市内の小中学校に配布している。

そこで、市内小中学校における児童生徒の椅子の座り心地に関する状況をどのように把握しているのか。また、児童生徒の学習環境を改善するためクッション等の配布を検討できないか伺う。

質問事項 3

西海市まちづくり出前講座について

質問の要旨

「西海市まちづくり出前講座」は、市職員が市民のもとへ赴き、市の施策を説明しながら意見交換を行うことで、市政への理解を深め、市民と行政の協働を促進する重要な取組である。

そこで、以下の点について伺う。

- (1) これまでの出前講座の開催実績と成果について、市民からどのような意見や要望が出され、それらが市政にどのように反映されたのかを伺う。
- (2) 職員が直接説明しなくても済む講座メニューについては、動画を作成しYouTube等で配信することで、より多くの市民に情報を届ける手法と考える。このようなデジタル技術を活用した情報提供を進めていく考えはないか伺う。

質問事項 4

行政区の見直しと運営改善について

質問の要旨

本市は平成17年の合併以降、旧5町ごとに行政区が区分され、さらに西彼町および西海町ではその中に複数の分区が設けられ、それぞれの地域で自治活動が行われている。しかし、人口減少により分区単位の自治運営が困難になりつつあり、今後、行政区の再編を通じて、住民サービスの維持・向上と行政運営の効率化を図る必要があると考える。

そこで、以下の点について伺う。

- (1) これまで行政区や分区の見直しが行われてきたのか伺う。また、今後どのような方針で取組を行うのか伺う。
- (2) 各行政区長への広報紙の配達方法について、現在、5町でばらつきが見られるが、効率的かつ統一的な配達方法に改善できないか伺う。また、各行政区長への

委嘱事務についても、統一が図られているのか、さらに事務の改善や効率化が進められているのか伺う。

13. 宮原 達也 議員

質問事項 1

市内高校の存続について

質問の要旨

本市には、県内トップレベルの大崎高校野球部や西彼杵高校女子バレー部があり、その活躍は目覚ましいものがある。これらの成果は、魅力ある高校づくりの一環として入学者の確保に寄与しているが、市内3つの高校において、定員割れしている学校もあり、今後の存続が厳しい面もあると考える。

そこで、次の点について伺う。

- (1) 市内高校の定員割れについて、具体的な原因をどのように分析しているのか。また、この現状に対して市として対応策を講じる考えはないか伺う。
- (2) 市内3つの高校の独自性を活かした魅力ある学校づくりに向け、市としてどのような支援を行っているのか、また、現状の支援策で十分であると評価しているのか伺う。
- (3) 西海市の子ども達が市内の高校に進学し、地元の企業に優先的に就職できるような支援策等について、市としてどのような取組を行っているのか伺う。
- (4) 市内3校への進学を推奨したいが、バスの乗り継ぎなど通学の便が悪いという問題について、市としてどのような改善策を検討しているのか伺う。

14. 戸浦 善彦 議員

質問事項 1

在宅高齢者等介護用品支給事業について

質問の要旨

在宅高齢者等介護用品支給事業は、介護が必要な在宅高齢者等で支給対象に該当される方に対し、介護用品であるおむつや尿取りパッドなどの購入費用を一部助成する制度である。しかし、近年の物価の高騰により、紙おむつ等の介護用品の価格も上昇し、その結果、介護をしている家族の経済的負担が増加している。

そこで、他の市町の状況も考慮しながら、本市の制度内容の見直しを行い、更なる拡充を検討する考えはないか伺う。

質問事項 2

防災食育センターの計画について

質問の要旨

現在、計画が進められている防衛交付金を活用した防災食育センターは、災害時には防災拠点として、平時には学校給食の調理をはじめ、防災・食育活動などが実施できるという、多機能な役割を担う施設である。

そこで、本市における防災食育センターの建設に関して、現在予定通りに進行しているのかについて伺う。

質問事項 3

地方公務員の兼業について

質問の要旨

総務省は近年、多様で柔軟な働き方へのニーズの高まりや、人口減少による人材不足を解消するため、地方公務員の兼業や副業への取組環境の整備を進めている。これは、地方公務員が地域に貢献する仕事を通じて報酬を得ることで、やりがいや生きがいを感じることができ、さらには地域の人材不足を補うことにも繋がる。

そこで、本市においても地域を支え活性化に繋がる事業や産業について、職員の兼業を進める考えはないか市長の考えを伺う。

質問事項 4

西海市指定史跡の活用について

質問の要旨

本市の指定史跡である「伊ノ浦砲台跡」は、市の指定史跡に指定されている歴史的価値がある場所である。この「伊ノ浦砲台跡」について適正に管理し、今後活用する考えはないか伺う。

15. 谷口 雅樹 議員

質問事項 1

イノシシ被害の対策について

質問の要旨

イノシシ被害対策について、次の点について伺う。

- (1) 令和5年度に長崎市、西海市、長与町、時津町の2市2町で「長崎・西彼地域鳥獣被害防止計画」が策定された。令和7年度が計画の最終年度となっているが、今後もこの計画を継続していくのか伺う。
- (2) イノシシによる被害は、一年を通じて、農作物被害に加え住宅地への侵入、石垣の倒壊、道路脇の掘り起こし、車との衝突、通行人への襲撃など、住民の生活に深刻な影響を及ぼしている。本市においてはこれまでも様々な対策を行っているが、更に本市独自の新たな対策を講じる考えはないか、市長の考えを伺う。

質問事項2

大島大橋公園の維持管理について

質問の要旨

公園や展望台は、本市を訪れる方々にとって魅力的な観光スポットであり、市内外から多くの訪問者を引き寄せる重要な施設である。最近では、訪れた場所の写真や動画をSNSに投稿する人が増えており、これが本市の魅力を広く発信する大きな力となっている。

特に、大島大橋公園は、大島大橋が海と空に映え、白く優美なシルエットを描く絶景スポットとして知られている。しかし、現在、公園内の遊歩道は老朽化が進み、危険なため立ち入り禁止区域となっている。

このような状況を踏まえ、今後維持管理体制を強化すべきと考えるが、市長の考えを伺う。

質問事項3

防災食育センターの建設予定地について

質問の要旨

現在、防災食育センターの建設予定地として、西海スポーツガーデンの敷地の一部が候補地に挙がっている。しかし、当該スポーツガーデンでは、年間を通じて多くのスポーツ大会や練習試合が行われており、本市のスポーツ活動の中心となっている。また、近隣には道の駅の「みかんどーム」や生産者直売所の「よかところ」があり、市内外から訪れる方々に本市の魅力を感じていただけるスポットとなっている。

このような場所に防災食育センターを建設することが適切であるのか疑問に思う。

そこで、市として建設場所の再検討を行う考えがないか伺う。